

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の IF 記載要領 2013 に準拠して作成

ビタミン B₁₂ 製剤

日本薬局方 シアノコバラミン注射液

シアノコバラミン注射液 1000 μg 「トローワ」

CYANOCOBALAMIN INJECTION 1000 μg “TOWA”

剤形	注射剤(溶液)
製剤の規制区分	処方箋医薬品 ^{注1)} 注1) 注意—医師等の処方箋により使用すること
規格・含量	1管(1mL)中 日局 シアノコバラミン 1000 μg 含有
一般名	和名：シアノコバラミン(JAN) 洋名：Cyanocobalamin(JAN、INN)
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	製造販売承認年月日：1984年5月18日 薬価基準収載年月日：1984年6月2日 販売開始年月日：1984年10月1日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元：東和薬品株式会社
医薬情報担当者の連絡先	電話番号： FAX：
問い合わせ窓口	東和薬品株式会社 学術部 DI センター(24時間受付対応)  0120-108-932 TEL 06-6900-9108 FAX 06-6908-5797 http://www.towayakuhin.co.jp/forstaff

本 IF は 2009 年 4 月改訂(第 6 版、取扱い上の注意の項等)の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は医薬品医療機器情報提供ホームページ

<http://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> にてご確認ください。

IF 利用の手引きの概要 — 日本病院薬剤師会 —

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IF と略す)の位置付け並びに IF 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において IF 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において IF 記載要領 2008 が策定された。

IF 記載要領 2008 では、IF を紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF 等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版の e-IF が提供されることとなった。

最新版の e-IF は、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(<http://www.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IF を掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせて e-IF の情報を検討する組織を設置して、個々の IF が添付文書を保管する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008 年より年 4 回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF 記載要領の一部改訂を行い IF 記載要領 2013 として公表する運びとなった。

2. IF とは

IF は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は IF の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された IF は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2013」(以下、「IF記載要領 2013」と略す)により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「IF記載要領 2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領 2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領 2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月)

目 次

I. 概要に関する項目	1	VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	14
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	14
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	14
II. 名称に関する項目	2	3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由	14
1. 販売名	2	4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由	14
2. 一般名	2	5. 慎重投与内容とその理由	14
3. 構造式又は示性式	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	14
4. 分子式及び分子量	3	7. 相互作用	14
5. 化学名(命名法)	3	8. 副作用	14
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	3	9. 高齢者への投与	15
7. CAS登録番号	3	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	15
III. 有効成分に関する項目	4	11. 小児等への投与	16
1. 物理化学的性質	4	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	16
2. 有効成分の各種条件下における安定性	4	13. 過量投与	16
3. 有効成分の確認試験法	5	14. 適用上の注意	16
4. 有効成分の定量法	5	15. その他の注意	16
IV. 製剤に関する項目	6	16. その他	16
1. 剤形	6	IX. 非臨床試験に関する項目	17
2. 製剤の組成	6	1. 薬理試験	17
3. 注射剤の調製法	6	2. 毒性試験	17
4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	6	X. 管理的事項に関する項目	18
5. 製剤の各種条件下における安定性	7	1. 規制区分	18
6. 溶解後の安定性	7	2. 有効期間又は使用期限	18
7. 他剤との配合変化(物理化学的变化)	7	3. 貯法・保存条件	18
8. 生物学的試験法	7	4. 薬剤取扱い上の注意点	18
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	7	5. 承認条件等	18
10. 製剤中の有効成分の定量法	7	6. 包装	18
11. 力価	7	7. 容器の材質	18
12. 混入する可能性のある夾雑物	7	8. 同一成分・同効薬	18
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	7	9. 国際誕生年月日	19
14. その他	7	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	19
V. 治療に関する項目	8	11. 薬価基準収載年月日	19
1. 効能・効果	8	12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容	19
2. 用法・用量	8	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	19
3. 臨床成績	8	14. 再審査期間	19
VI. 薬効薬理に関する項目	10	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	19
1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	10	16. 各種コード	19
2. 薬理作用	10	17. 保険給付上の注意	19
VII. 薬物動態に関する項目	11	XI. 文 献	21
1. 血中濃度の推移・測定法	11	1. 引用文献	21
2. 薬物速度論的パラメータ	11	2. その他の参考文献	21
3. 吸収	12	XII. 参考資料	21
4. 分布	12	1. 主な外国での発売状況	21
5. 代謝	12	2. 海外における臨床支援情報	21
6. 排泄	13	XIII. 備 考	21
7. トランスポーターに関する情報	13	その他の関連資料	21
8. 透析等による除去率	13		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

シアノコバラミン注射液はビタミン B₁₂ 製剤である。東和薬品株式会社(旧 別府温泉化学研究所)が後発医薬品として、シアノコバラミン注射液 1000 μg「トーワ」の開発を企画し、1984年5月に承認を取得、1984年10月に発売した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

臨床的特性

有用性：シアノコバラミン注射液 1000 μg「トーワ」は、①ビタミン B₁₂ 欠乏症の予防及び治療、②ビタミン B₁₂ の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患、甲状腺機能亢進症、妊産婦、授乳婦など)、③巨赤芽球性貧血、④広節裂頭条虫症、⑤悪性貧血に伴う神経障害、⑥吸収不全症候群(スプルーなど)、⑦栄養性及び妊娠性貧血、胃切除後の貧血、肝障害に伴う貧血、放射線による白血球減少症、神経痛、末梢神経炎、末梢神経麻痺の疾患のうち、ビタミン B₁₂ の欠乏または代謝障害が関与すると推定される場合に対して、シアノコバラミンとして、通常、成人には1回 1000 μg までを皮下、筋肉内または静脈内注射することにより、有用性が認められている。

安全性：本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用として、発疹、そう痒感等が報告されている。。〔VIII. 8. (3) その他の副作用の項を参照〕

重大な副作用として、アナフィラキシー様症状があらわれることがある。〔VIII. 8. (2) 重大な副作用と初期症状の項を参照〕

Ⅱ. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

シアノコバラミン注射液 1000 μ g 「トーフ」

(2) 洋名

CYANOCOBALAMIN INJECTION 1000 μ g “TOWA”

(3) 名称の由来

一般名+剤形+規格(含量)+「トーフ」

〔「医療用後発医薬品の承認申請にあたっての販売名の命名に関する留意事項について」(平成 17 年 9 月 22 日 薬食審査発第 0922001 号)に基づく〕

2. 一般名

(1) 和名(命名法)

シアノコバラミン(JAN)

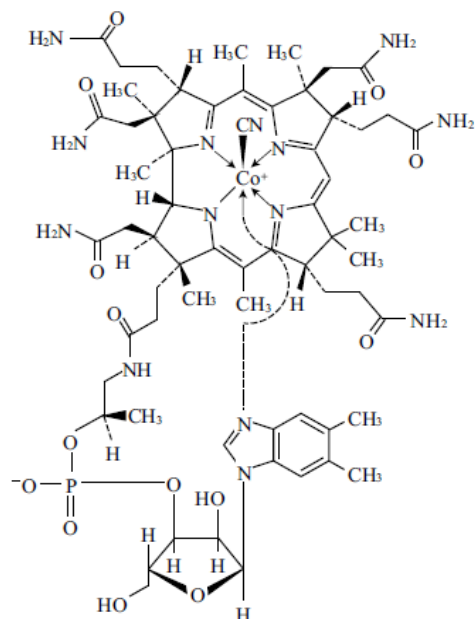
(2) 洋名(命名法)

Cyanocobalamin(JAN、INN)

(3) ステム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : $C_{63}H_{88}CoN_{14}O_{14}P$

分子量 : 1355.37

5. 化学名 (命名法)

Co α -[α -(5,6-Dimethyl-1*H*-benzimidazol-1-yl)]-*Co* β -cyanocobamide (IUPAC)

6. 慣用名、別名、略号、記号番号

別名 : ビタミン B₁₂

7. CAS 登録番号

68-19-9

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

暗赤色の結晶又は粉末である。
強い光に長時間さらすと分解する。

(2) 溶解性

溶 媒	1g を溶かすのに要する溶媒量		溶 解 性
水	30mL 以上	100mL 未満	やや溶けにくい
エタノール(99.5)	100mL 以上	1000mL 未満	溶けにくい

(3) 吸 湿 性

吸湿性である。
無水状態の結晶は吸湿性が強く、湿度 50%の空气中に放置すると、約 12%の水を吸収する。

(4) 融点(分解点)・沸点・凝固点

該当資料なし

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

pH : 本品 0.10g を新たに煮沸して冷却した水 20mL に溶かした液の pH は 4.2~7.0 である。

吸光度 $E_{1\text{cm}}^{1\%}(278\text{nm})$: 115 [本品の水溶液(20mg→1000mL)]

$E_{1\text{cm}}^{1\%}(361\text{nm})$: 207 [本品の水溶液(20mg→1000mL)]

$E_{1\text{cm}}^{1\%}(550\text{nm})$: 63 [本品の水溶液(20mg→1000mL)]

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

- (1) 紫外可視吸光度測定法
- (2) コバルトの定性反応
- (3) シアンの定性反応

4. 有効成分の定量法

紫外可視吸光度測定法

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別、規格及び性状

剤形の区別	注射剤(溶液)
性状	淡赤色～赤色澄明の液。光によって徐々に変化する。

(2) 溶液及び溶解時の pH、浸透圧比、粘度、比重、安定な pH 域等

pH	4.0～5.5
浸透圧比	約 1(生理食塩液に対する比)

(3) 注射剤の容器中の特殊な気体の有無及び種類

窒素

2. 製剤の組成

(1) 有効成分(活性成分)の含量

1 管(1mL)中 日局 シアノコバラミン 1000 μ g を含有する。

(2) 添加物

使用目的	添加物
等張化剤	塩化 Na
pH 調整剤	塩酸、水酸化 Na

(3) 電解質の濃度

該当しない

(4) 添付溶解液の組成及び容量

該当資料なし

(5) その他

該当資料なし

3. 注射剤の調製法

該当しない

4. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

該当しない

5. 製剤の各種条件下における安定性

(1) 長期保存試験¹⁾

包装形態：1mL 褐色ガラスアンプルに入れた製品

試験条件：室温保存、3ロット(n=3)

試験項目	開始時	3年
性状	赤色澄明な液	同左
pH	4.30～4.45	5.13～5.20
含量(%)	110.4～110.9	107.4～108.1

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温保存、3年)の結果、シアノコバラミン注射液 1000 μ g「トローワ」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。

6. 溶解後の安定性

該当しない

7. 他剤との配合変化(物理化学的变化)

巻末 配合変化試験成績を参照

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

紫外可視吸光度測定法

10. 製剤中の有効成分の定量法

紫外可視吸光度測定法

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当しない

14. その他

該当しない

V. 治療に関する項目

1. 効能・効果

1. ビタミン B₁₂ 欠乏症の予防及び治療
2. ビタミン B₁₂ の需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給(消耗性疾患、甲状腺機能亢進症、妊産婦、授乳婦など)
3. 巨赤芽球性貧血
4. 広節裂頭条虫症
5. 悪性貧血に伴う神経障害
6. 吸収不全症候群(スプルーなど)
7. 下記疾患のうち、ビタミン B₁₂ の欠乏または代謝障害が関与すると推定される場合
 - 1) 栄養性及び妊娠性貧血
 - 2) 胃切除後の貧血
 - 3) 肝障害に伴う貧血
 - 4) 放射線による白血球減少症
 - 5) 神経痛
 - 6) 末梢神経炎、末梢神経麻痺
7. の適応に対して、効果がないのに月余にわたって漫然と使用すべきでない。

2. 用法・用量

シアノコバラミンとして、通常、成人 1 回 1,000 μ g までを皮下、筋肉内または静脈内注射する。
なお、年齢、症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

酢酸ヒドロキソコバラミン、メチルコバラミンなど(ビタミン B₁₂)

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序²⁾

多くの代謝系に関与し、正常な発育、造血、神経組織のミエリン鞘形成などに重要な役割を果たしている。DNA 合成過程に必要な葉酸を活性化することにより、間接的に DNA 合成に関与するほか、メチルマロニル CoA からサクシニル CoA への転換反応に関与することによって造血機能を促進する。また、還元型 SH 基の保護、メチオニン合成時の役割を介してたん白合成にも影響を及ぼし、髄鞘の形成促進作用、グリア細胞での核酸・たん白代謝を改善する。眼に対しては、酸素消費量を増し、ATP 産生を増大させる。調節性眼精疲労を改善する。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

該当資料なし

(6) 母集団(ポピュレーション)解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積
該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率
該当資料なし

3. 吸 収
該当資料なし

4. 分 布

(1) 血液－脳関門通過性
該当資料なし

(2) 血液－胎盤関門通過性
該当資料なし

(3) 乳汁への移行性
該当資料なし

(4) 髄液への移行性
該当資料なし

(5) その他の組織への移行性
該当資料なし

5. 代 謝

(1) 代謝部位及び代謝経路
該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素(CYP450 等)の分子種
該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合
該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率
該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排 泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能・効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法・用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

該当しない

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

該当しない

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

該当しない

(2) 併用注意とその理由

該当しない

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状

重大な副作用（頻度不明） アナフィラキシー様症状：アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

その他の副作用	
	頻度不明
過敏症^{注2)}	発疹、そう痒感
注2) このような場合には投与を中止すること。	

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

添付文書より抜粋

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
--

重大な副作用(頻度不明) アナフィラキシー様症状：アナフィラキシー様症状があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

その他の副作用	
	頻 度 不 明
過敏症^{注)}	発疹、そう痒感
注) このような場合には投与を中止すること。	

9. 高齢者への投与

該当しない

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

該当しない

11. 小児等への投与

該当しない

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当しない

13. 過量投与

該当しない

14. 適用上の注意

適用上の注意

- 1) 筋肉内注射時：筋肉内注射にあたっては、組織・神経等への影響を避けるため、下記の点に注意すること。
 - (1) 筋肉内注射はやむを得ない場合にのみ、必要最小限に行うこと。なお、特に同一部位への反復注射は行わないこと。また、低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児は特に注意すること。
 - (2) 神経走行部位を避けるよう注意すること。
 - (3) 注射針を刺入したとき、激痛を訴えたり、血液の逆流をみた場合は、直ちに針を抜き、部位を変えて注射すること。
- 2) アンプルカット時：本剤はワンポイントカットアンプルであるが、異物の混入を避けるため、アンプルカット部分をエタノール綿等で清拭してからカットすることが望ましい。

15. その他の注意

該当しない

16. その他

該当しない

Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験

該当資料なし

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製剤：処方箋医薬品^{注)}

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

有効成分：該当しない

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年(外箱、アンプルに記載)

3. 貯法・保存条件

貯法：遮光・室温保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

該当資料なし

(2) 薬剤交付時の取扱いについて

患者向医薬品ガイド：無

くすりのしおり：有

その他の患者向け資材：無

(3) 調剤時の留意点について

注意

本剤はワンポイントカットアンプルを使用しているため、アンプル頭部の●マークを上にして反対方向に折りとること。

VIII. 14. 適用上の注意の項を参照

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

包装形態	内容量(重量、容量又は個数等)
アンプル包装	1mL×10管、1mL×100管

7. 容器の材質

材質
アンプル：ガラス

8. 同一成分・同効薬

同一成分：ビタミン B₁₂ 注”Z”100 μg、ビタミン B₁₂ 注”Z”1,000 μg

同効薬：コバマミド、ヒドロキシコバラミン、メコバラミン

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

製造販売承認年月日	承認番号	備考
1984年 5月 18日	(59AM)0437	

11. 薬価基準収載年月日

薬価基準収載年月日	備考
1984年 6月 2日	

12. 効能・効果追加、用法・用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

再審査結果：該当しない

薬効再評価結果公表年月日：1976年 4月 28日

薬効再評価結果：薬事法第14条第2項各号(承認拒否事由)のいずれにも該当しないとの結果を得た。

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬(あるいは投与)期間に関する制限は定められていない。

ただし、V. 1. 効能・効果の項に注意喚起の記載がある。

16. 各種コード

包装単位	HOT 番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト 電算コード
10 管	1071139060102	3136402A3017	643130346
100 管	1071139060101		

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

X I . 文 献

1. 引用文献

- 1) 東和薬品株式会社 社内資料：長期保存試験
- 2) 第十五改正日本薬局方解説書，C-1571～C-1578，廣川書店（2006）

2. その他の参考文献

該当資料なし

X II . 参 考 資 料

1. 主な外国での発売状況

該当資料なし

2. 海外における臨床支援情報

該当資料なし

X III . 備 考

その他の関連資料

東和薬品株式会社 製品情報ホームページ

<http://med.towayakuhin.co.jp/medical/product/index.php>

シアノコバラミン注射液 1000 μ g 「トーワ」 配合変化試験成績

1. 配合変化試験

試験方法：本剤と配合薬の各々1容量を均質となるよう混合した。
 混合後の検体は、20～25℃密栓、遮光保管とした。

検 体：シアノコバラミン注射液1000 μ g 「トーワ」

試 験 日：2004年1月

測定項目	測定方法	測定時期
外観	室内散光下、目視	配合直後、1、2、3、6及び24時間後
pH	pH測定法	
残存率	吸光度測定法	

分類	配合薬			配 合 結 果								
	品名 (メーカー)	成分名	配合量	外観	配合前* (配合薬)	配合直後	1時間後	2時間後	3時間後	6時間後	24時間後	
糖 類 剤	大塚糖液5% (大塚製薬工場－ 大塚製薬)	ブドウ糖	本 剤：1mL 配合薬：100mL	外観	無色澄明	淡赤色 澄明	同左	同左	同左	同左	同左	同左
				pH	3.5～6.5	4.99	5.06	5.13	5.21	5.29	5.33	
				残存率 (%)		100.0	98.6	99.5	99.5	98.6	98.1	
	大塚糖液20% (大塚製薬工場－ 大塚製薬)	ブドウ糖	本 剤：1mL 配合薬：20mL	外観	無色澄明	淡赤色 澄明	同左	同左	同左	同左	同左	同左
				pH	3.5～6.5	4.40	4.42	4.44	4.47	4.50	4.49	
				残存率 (%)		100.0	100.5	100.0	99.5	100.0	99.5	
血 液 代 用 剤	大塚生食注 (大塚製薬工場－ 大塚製薬)	塩化 ナトリウム	本 剤：1mL 配合薬：20mL	外観	無色澄明	淡赤色 澄明	同左	同左	同左	同左	同左	
				pH	4.5～8.0	5.88	5.88	5.87	5.86	5.87	5.74	
				残存率 (%)		100.0	101.5	100.5	100.0	100.5	100.0	
ビ タ ミ ン B ₁ 剤	メタボリン 注射液50mg (武田薬品工業)	チアミン 塩化物 塩酸塩	本 剤：1mL 配合薬：1mL	外観	無色澄明	淡赤色 澄明	同左	同左	同左	同左	同左	
				pH	2.5～4.5	2.78	2.79	2.79	2.79	2.78	2.76	
				残存率 (%)		100.0	99.8	99.8	99.3	98.1	92.9	

分類	配合薬			配合結果							
	品名 (メーカー)	成分名	配合量		配合前* (配合薬)	配合直後	1時間後	2時間後	3時間後	6時間後	24時間後
解熱鎮痛消炎剤	ノイトロピン注射液3.6単位 (日本臓器)	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	本剤：1mL 配合薬：3mL	外観	無色～淡黄色	淡赤色 澄明	同左	同左	同左	同左	同左
				pH	7.0～8.0	6.98	6.92	6.93	6.92	6.94	7.02
				残存率 (%)		100.0	100.9	100.9	99.5	100.0	100.2
	ナプトピン注 (東菱薬品工業— アイロム製薬)	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	本剤：1mL 配合薬：3mL	外観	無色～淡黄色澄明	淡赤色 澄明	同左	同左	同左	同左	同左
				pH	7.0～8.0	7.00	7.15	7.17	7.20	7.24	7.27
				残存率 (%)		100.0	100.2	100.5	100.2	100.5	101.9

*：製品の添付文書情報より記載

2. pH 変動スケール

検 体：シアノコバラミン注射液1000 μ g 「トーワ」

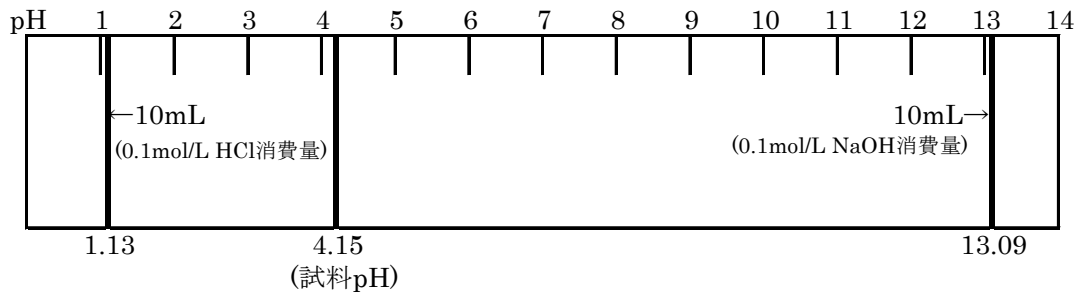
容 量：1mL

有効成分：シアノコバラミン・・・1000 μ g

性 状：淡赤色～赤色澄明の液。光によって徐々に変化する。

pH 規格：4.0～5.5

浸透圧比：約1(生理食塩液に対する比)





製造販売元

東和薬品株式会社

大阪府門真市新橋町2番11号